

國學院大學學術情報リポジトリ

日本語心理動詞の人称制限についての一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學大学院文学研究科 公開日: 2024-10-22 キーワード (Ja): 心理動詞, 人称制限, アスペクト対立 キーワード (En): 作成者: 韓, 濟蓬, Han, Jipeng メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000965

日本語心理動詞の人称制限についての一考察

A study of the Person Restriction in Japanese psych verbs

韓 濟 蓬

キーワード：心理動詞 人称制限 アスペクト対立

Key Words: psych verbs person restriction aspect

要旨

現代日本語において、人の内的な感情状態を表す一部の心理動詞には、人称制限という特徴が見られる。先行研究によれば、日本語の人称制限とは、平叙文において、一部の心理動詞のスル形は一人称に限定しており、シテイルの接続により、それらの動詞と二、三人称との共起が容認されるという現象である。本稿は、先行研究に基づき、人称制限の研究範囲を疑問文に拡大した。

日本語語彙層における和語の特殊な位置づけを考慮した上で、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表から使用頻度の最も高い30個の和語心理動詞を研究対象として選出した。さらに、先行研究を踏まえながら、心理動詞の人称制限の出現条件を提出した。

実例調査とアンケート調査を通じて、30個の心理動詞の人称分布を考察した。調査の結果として、30個の心理動詞の人称分布は、従来の文献における人称制限の分布に一致しないことが明らかになった。

Abstract

In modern Japanese, certain psychological verbs that express a person's internal emotional state exhibit a characteristic known as person restriction. According to previous research, person restriction in Japanese refers to the phenomenon where, in declarative sentences, the plain form of some psychological verbs is limited to the first person, but by using the progressive form (V-sitei-ru), the co-occurrence of these verbs with the second and third persons is allowed. This paper extends the scope of research on person restriction to interrogative sentences.

Considering the special position of native Japanese words in the Japanese lexical system, in this paper, we selected the 30 most frequently used native Japanese psychological verbs as research subjects from the "Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese" short-unit vocabulary list. Furthermore, based on previous research, we proposed the conditions under which person restriction of psychological verbs appears.

Through empirical investigations and questionnaire surveys, we examined the person

distribution of the 30 psychological verbs. The results of the survey revealed that the person distribution of the 30 psychological verbs does not match the distribution of person restriction described in the existing literature.

一、問題提起

日本語においては、「驚く、楽しむ」のような人の内的状態を表す動詞がある。それらの動詞は、先行研究では、独自の振る舞いを持つことで、ほかの動詞と区別されている。それらの動詞の特殊性は、(1)のように、動詞形式と主語人称との関連性から見られる⁽¹⁾。便宜上、本稿では、内的状態を表す動詞を「心理動詞」と呼ぶことにする。

- (1) a. 私は腹が立つ。
b. *彼は腹が立つ。
c. 私は腹が立っている。
d. 彼は腹が立っている。 (山岡2014: 28)

(1a) (1b) のように、無標の「腹が立つ」は、一人称と問題なく共起できるのに対し、「腹が立つ」の経験者 (experiencer) を三人称にすることができない。反面、(1c) (1d) では、「腹が立つ」のシテイル形は人称に関わりなく、一人称文、三人称文とも自然に使われている。日本語の心理動詞の人称制限とは、心理動詞のスル形をとる文は、一人称に制限されているのに対し、シテイル形をとる文がその制限を受けないということである (工藤1995: 89-91)。

しかしながら、心理動詞の人称制限は、一概に上述のような結論で片付けることができないようである。例えば、山岡 (2014) は、「怒る」のような心理動詞は、一人称主語と共起しにくい、シテイル形になると自然な文であることを提示している。

(1) 文法性判断を示す記号として、非文法的な文は「*」、非文法的とまでは言えないが、不自然さを伴う文は「?」、非文法的とまでは言えないが、かなり不自然さを伴う文は「??」をつける。

- (2) a. *ああ、怒る。
 b. 私は怒っている。 (ibid. : 32)

例(2) が示しているように、心理動詞「怒る」のスル-シテイル対立は、工藤(1995)が指摘した人称制限が見られない。換言すれば、心理動詞であるなら人称制限を受けるというわけではない。

本稿は、心理動詞の人称制限のあり方を研究課題として展開していきたい。現代日本語における一部の心理動詞の人称制限については、多くの先行研究において、平叙文における一人称と三人称との対立と見なされている。しかしながら、上述のように、心理動詞における三人称への使用制限は、簡単にシテイル形にすれば解消されるということではないようである。心理動詞の人称制限を全体的に把握するには、二人称文や疑問文も研究視野に入れる必要があると考えられる。

さらに、本稿の研究対象は、心理動詞を和語動詞に限定している。その理由は、以下のようなものである。

日本語の語種は、「和語」「漢語」「外来語」「オノマトペ」という四つの部分からなっている。一般言語学においては、語種の分類は現代語における文法的・音韻的・形態的な特徴に基づいている (Kageyama & Saito 2016)。日本語の語種は、文法体系への溶け込み度が、表1が示すように、重層構造を成している (影山2021)。

表1 語彙層と文法体系への溶け込み度 (影山2021: 110)

述語連鎖への参加	小	4: 最も溶け込みが少ない「オノマトペ」の層
	↑	3: 次に溶け込みが少ない「外来語」の層
	↓	2: 比較的よく溶け込んでいる「漢語」の層
	大	1: 日本語のコアとなる「和語」の層

表1における1に示されているとおり、日本語の語彙層では、和語が最も中心的な層をなしており、文法的な用法の制限については、和語の溶け込みの度合いが最も大きいと考えられる。和語動詞を切り口とすることにより、スル-シテイルという文法的な対立をより明確に把握できると考えられる。

さらに、研究対象を和語動詞に限定していても、心理動詞も数多く存在しているため、本稿では、国立国語研究所が作成した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語彙表 (Version 1.1)⁽²⁾ から使用頻度が最も高い30個の和語心理動詞を選出し、それらの心理動詞を対象として考察する。考察対象としては、具体的には以下のようなものである。

- (3) 思う、考える、分かる、知る、認める、楽しむ、覚える、驚く、困る、喜ぶ、怒る、疲れる、苦しむ、望む、悩む、慌てる、諦める、恐れる、迷う、疑う、好む、祈る、嫌う、こだわる、飽きる、焦る、呆れる、怯える、躊躇う、戸惑う

本稿の構成は以下のようなものである。第一章は先行研究および問題提起である。それをもとに、次の第二章では先行研究を踏まえながら、事例調査やアンケート調査という二つの研究手法を用い、研究対象となる30個の心理動詞の人称分布の状況を調べる。そのうえ、心理動詞の人称分布は、先行研究が提案した人称分布に一致しているかどうかを検証する。第三章においては、結論をまとめ、今後の課題を示す。

二、心理動詞の人称分布

本節では、事例調査とアンケート調査という二つの方法を通じ、心理動詞の人称分布について検討する。

(一) 調査方法

本稿の研究方法は、事例調査とアンケート調査との二つの部分から成り立っている。事例調査にあたり、BCCWJ⁽²⁾を利用する。金水(1989)や工藤(1995)が述べているように、日本語の心理動詞の人称制限は、会話文のみに見られるという文体的な制限を受けている。よって、本稿の研究対象は、BCCWJに収録された会話文に限定されている。

(2) <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/bcc-chu.html> (2023年12月登録)

もう一つの調査方法は、アンケート調査である。調査方法として、研究対象となる30個の動詞の、必要な項(argument)以外の成分をすべて排除し、できれば最も簡潔な形式の文を作った上で、人称と動詞形式との関わりを検討する。作り上げた例文の妥当性確認は、3人の母語話者に委ねる。表現の座り良さの程度として、A(文法的かつ自然な文)、B(文法的であるがやや不自然である文)、C(文法的であるがかなり不自然である文)、D(文法的ではない文)という四つのレベルを設置する。事例調査とアンケート調査の結果は、付表を参照されたい。

また、心理動詞の人称制限の分布をより明確に統計するために、以下のような基準を設定しておきたい。まず、アンケート調査の結果に基づき、心理文の自然さの四つのレベルに、数値を付加する。具体的に、心理文の自然さがAと判断した場合は、3点加点と見なす。さらに、B、C、Dの場合はそれぞれ2点、1点、0点とする。また、事例調査において、2例以上の該当例文がある場合は、1点加点と見なす。三人の母語話者ともAと判断した場合の9点と事例調査において2例以上の該当例文の1点を合わせて満点10点となる。

なお、事例調査においては、該当語例が見られない動詞が極めて多いため、文の自然さの判断は、基本的にアンケート調査の結果によって決められることになる。しかしながら、文の自然さの判断にも個人差がある。以上のことを考慮した上で、本稿では、以下の判断基準を設定する。先述のように、事例調査では該当語例が少ないため、ここでは、該当語例が見られないと想定しながら、三人の母語話者のうち、二人はAと認定し、もう一人はBまたはB以上と評価された文を自然な文と認定する。言い換えれば、事例調査とアンケート調査を合わせて、点数が8点または8点を超えると自然な文と認定することにする。

なお、便宜上、本稿では、点数が8点以上の場合を「○」で、8点以下の場合を「×」で標記する。

以下は、調査の結果を踏まえながら、一人称文、二人称文、三人称文という順で論述する。

(二) 調査結果

本節では、調査結果を整理し、先行研究が提唱した心理動詞の人称パターンは、すべての心理動詞にも適用できるかどうかを検証する。調査結果は、付表に添付する。本節では、平叙文、疑問文という順番で心理動詞文における心理動詞

のスル-シテイル対立を検討する。

1. 一人称文

(1) 平叙文

付表を見ると分かるように、すべての心理動詞のスル形は、問題なく一人称文と共起できるとはいえない。そのうち、「知る」「楽しむ」「喜ぶ」「怒る」「疲れる」「苦しむ」「悩む」「慌てる」「恐れる」「飽きる」「焦る」「呆れる」「怯える」「戸惑う」という14個の動詞は一人称文の述語に位置すると不自然な文となる。この調査結果は、多くの先行研究の結論に反している。

心理動詞のスル形と一人称との共起可能性においては、ほかの要因に左右されると考えられる。南(2002)は、日本語の人称制限については、「関与」という特徴があるという指摘がある。関与とは、伝達主体(情報の送り手と受け手)は、ある内容を「我がこと」として扱うことである(ibid.: 461)。尚且つ、南(2002)では、人称制限には、「関与」のほかに、「現場性」という特徴があると提唱されている。「現場性」は、眼前の事実についての報告や説明である。この二つ特徴が揃ってはじめて、人称制限が成立する。南(2002)が提案した人称制限の条件は、山岡(2000)の「感情表出」という文機能の条件に一致している。したがって、本稿は、「感情表出」という機能を有することが、人称制限の成立の必要条件と考えられる。

山岡(2000: 184)のことばを借りれば、感情表出の成立は、「発話時との同時性という、一種の状態性を発生させる」ということである。換言すれば、発話時だけその感情は表出されていることである。そのため、心理動詞は感情表出という文機能を帯びる場合においては、動き動詞であっても、動詞のスル形で瞬間的現在を表すことができる。

感情表出の成立には、述語が「感情性述語」であることが要求されている。感情性述語の下位分類として感情表出動詞、感情変化動詞があるが、「怒る」などの感情描写動詞はその範囲に属していない(山岡2014)。それゆえ、発話時現在における話者の内的状態を表す場合、感情表出動詞のスル形は一人称平叙文と共に使えるのに対し、感情描写動詞のスル形は一人称平叙文と共起できない。

また、感情変化動詞は、シタ形で一人称主語の感情を表出することができる(山岡2000)。山岡(2000)が提案した感情表出の命題条件を参照すると、本稿の

研究対象である「思う、考える、分かる、覚える、驚く、困る、望む、諦める、迷う、疑う、嫌う、困る、躊躇う」といった動詞は、感情表出動詞に該当している。それらの動詞のスル形は、平叙文において、問題なく一人称主語を取ることができる。

一方、「焦る、疲れる、飽きる、呆れる」という四つの動詞は、感情変化動詞である。それらの動詞は平叙文に位置すると、スル形で一人称と共起できないが、シタ形に変換すれば、一人称主語であっても自然な文として受け入れることができる。たとえば、

- (4) a. 「あせったよなあ。大山ばあさん、いないかと思ったら、とつ然どなるんだから。わざとタイミングずらしたんだぜ。」マモルが、にやにやしながら言った。
(河野礼子『ぼくらのじぐざぐドリブル』1996)
- b. 「疲れた、オレ」ポツリと言った。
(井上夢人・徳山諄一『七日間の身代金』1990)
- c. 「このような山中に隠れ住むのも飽きた」城主は妖し嘲の魔笛を吹き鳴らした。
(赤川次郎『雨の夜、夜行列車に』1990)
- d. 「しぶといのには呆れましたね。なにしろ、なりふりかまわずなんですからね」岡田は大きくうなずくと顔をよせ、よせたわりには大きな声で強調した。
(吉松安弘『東条英機暗殺の夏』1989)

以上のことを踏まえると、感情変化動詞のシタ-シテイル対立は、感情表出動詞のスル-シテイル対立と同様に、心理動詞の人称制限の一形式と見なしても問題がないようである。しかしながら、そういう想定が不十分と言える理由は、次のようである。

まず、シタ形で一人称内的状態を表すのは、文脈からの制限を受けており、「一語文的」という文形式でなければ、過去読みになる傾向がある。そのような使い方は、「しまった」のような、感嘆詞に近づいている用法である(鈴木1978)。感嘆詞は、言うまでもなく一人称の感情表出に限定されている。したがって、「困った」のような感嘆詞的な心理動詞の特殊用法にも人称制限を認めるとするのは、人称制限の概念をさらに拡大すると考えられる。

一方、「知る、楽しむ、喜ぶ、怒る、苦しむ、悩む、慌てる、恐れる、戸惑う、

怯える」といった動詞は、スル形でもシタ形でも一人称主語の発話現場に生じた感情を表出することができない。また、「祈る」「こだわる」「好む」という三語は、スル形で一人称文と共起できるが、「*ああ、こだわる!」「*ああ、好む!」「*ああ、祈る!」という文になれず、感情表出動詞とは認定しにくい。したがって、本稿では、それらの動詞を感情描写動詞と認定している。

(2) 疑問文

一人称疑問文とは、自問という形で、自分の状態や感覚の成立を確認することである。自分の内的状態を知るのは、自分だけであるが、知覚してから自分自身に思考や感覚の成立を確認したときもある。その場合には、自分のことを外部から観察するため、シテイル形を使うのが一般的である(鷲見1996)。付表で示されたように、疑問文においては、すべての動詞のシテイル形は一人称主語を取ることができる。

一方、「思う、考える、認める、諦める、好む、祈る、こだわる」という七つの動詞スル形は、一人称疑問文において使えるようである。例えば、「思う」のスル形は一人称主語と共起できる。(5)を見よう。

- (5) a. わたしは自分が彼のことが好きだと思う?
b. わたしは自分が彼のことが好きだと思っている?

(作例 妥当性は母語話者に確認済み)

(5)で示されたように、「思う」のスル形は、自問する場面においても問題なく使われている。このような場合においては、動詞をシテイル形にしても文の意味は変わらない。

また、アンケート調査において、インフォーマント2とインフォーマント3は、「考える、認める、諦める、好む、祈る、こだわる」という六つの動詞のスル形が一人称疑問文においても問題なく使えると答えている。具体的にいうと、インフォーマント2とインフォーマント3によれば、「わたしは<自分の将来についてこれからそう>考えるの」のように、「これから…する」という未来読みであれば適格文と認められているが、それらの文は、発話時現在のことを表す場合においては、シテイル形でなければ許容できない。例えば、

- (6) a. *わたしは自分の将来について今そう考えるの？
 b. わたしは自分の将来について今そう考えているの？

(作例 妥当性は母語話者に確認済み)

また、一部の心理動詞が「いつも…する」という習慣的なニュアンスで成立すると、インフォーマント2とインフォーマント3はそのようなことを指摘している。そのような場合も、「心理動詞文の時間的意味が発話時現在である」という人称制限の条件を満たさないため、人称制限が生じていないため、一人称疑問文であっても問題なく使える。

2. 二人称文

(1) 平叙文

付表で示されたように、「こだわる」という一語を除くと、平叙文において、心理動詞は二人称主語を取ることが難しいことが明らかになった。それに対し、シテイル形は、平叙文であっても疑問文であっても、すべての動詞と共起できることが見られる。先述したように、二人称主語の心理状態を表す場合においては、スル形を使うことが許されないと考えられるが、「こだわる」のスル形は二人称主語を取ることができる。

- (7) あなたはおすしの食べ方にこだわる。

(作例 妥当性は母語話者に確認済み)

(7)における「こだわる」は、経験者の内的状態ではなく、自分以外の人の性質を説明することになる。その場合、心理文の時制は山岡(2000)が述べた「超時」になり、「心理動詞文の時間的意味は発話時現在であること」という条件に合わないため、人称制限が生じておらず、二人称との共起も認められる。

なお、調査結果からみると、二人称平叙文においては、シテイル形はどのような動詞と共起しても問題なく使われている。ただし、神尾(1990、2002)、林佩怡(2010)などの先行研究が指摘しているように、二人称平叙文においては、動詞がシテイル形になっても文の容認度が落ちる。その理由として、二人称である

聞き手の内的状態を断言することは、聞き手の感覚を見透かしているような、他人の情報のなわばりに侵入する不適切な表現である。本稿は、シテイル形は人称制限を解除できるかどうかということに着目し、上述のような語用論的制限は考慮しない。

(2) 疑問文

付表によると、「知る、楽しむ、驚く、喜ぶ、怒る、疲れる、苦しむ、悩む、慌てる、迷う、祈る、恐れる、飽きる、焦る、呆れる、怯える、戸惑う」という17語のスル形は疑問文の述語に位置すると、二人称主語との共起の許容度が落ちる。

そのうち、「知る、楽しむ、喜ぶ、怒る、苦しむ、悩む、慌てる、恐れる、怯える、戸惑う」という10個の動詞は、前文で提案した感情描写動詞に該当している。それらの動詞のスル形は、一人称平叙文との共起ができない一方で、二人称疑問文との共起も許容されない。

楊文江(2023)に従えば、人称制限のある感情表出動詞は、一人称平叙文でも二人称疑問文でも、スル形を使う。換言すれば、人称制限のある動詞において、一人称平叙文と二人称疑問文との動詞形式は、連動するはずであるが、感情表出動詞である「驚く、迷う」のスル形は二人称主語を取れないことが明らかである。「驚く」は、一人称平叙文において、スル形もシタ形式も使えるが、二人称疑問文においては、(8)のように、シタ形が使えるのに対し、スル形の使用は許可されない(8b)。しかしながら、テイル形に変化すると、自然な文として受け入れられる(8c)。

- (8) a. ところが室に入るなり良子は、井関を振り向いて笑いかけ「驚いた?…」と聞きながら抱きついてきたのである。(清水一行『逆転の歯車』1994)
- b. *あなたはそれに驚くの? (作例 妥当性は母語話者に確認済み)
- c. あなたは今、それに驚いているの?
(作例 妥当性は母語話者に確認済み)

「驚く」と同様に、「迷う、祈る」という二つの単語のスル形と二人称疑問文との共起も許容されず、シテイル形に変換すると使える。また、「驚く」と異なり、そ

これらの動詞をシタ形に変えると、発話時現在ではなく、過去における聞き手の内的状態を尋ねる文になる。

3. 三人称文

(1) 平叙文

工藤 (1995) などの先行研究によれば、三人称主語と心理動詞のスル形との共起が許容されない。付表に示されるように、「分かる」「こだわる」を除けば、すべての動詞のスル形は三人称文の述語にならない。実例調査においては、その二つの心理動詞が一人称文と共起する例文が見られないため、以下では、アンケート調査で使われる例文(彼はそれが分かる、彼はそれにこだわる)に、必要となる項を補足して説明する。

- (9) a. 彼は英語が分かる。
 b. 彼はあの道具を使うことにこだわる。

(作例 妥当性は母語話者に確認済み)

(9) で示された二つの例文は、自然な文として受け入れられる。それは、心理文の時間的意味は「超時」になるため、心理動詞の人称制限が解除され、二人称との共起が容認されている。一方で、30個の心理動詞はすべてシテイル形との共起が許容されている。その結果は、工藤 (1995) などの結論と一致している。

(2) 疑問文

平叙文と同じく、疑問文においては、すべての動詞のシテイル形は三人称主語を取ることができるが、アンケート調査においては、インフォーマント2やインフォーマント3は、「分かる」「認める」「覚える」「嫌う」といった動詞のスル形が三人称主語を取ることができる。そして、インフォーマント全員とも「こだわる」が二、三人称主語を取ることができると主張している。理由としては、それらの動詞が述語となる心理文はいずれも対象(三人称)の性質を尋ねる文であり、心理文の時間的意味がいずれも「発話時現在」ではないためである。

三、まとめと今後の課題

本論文は先行研究を整理し、それらを受け継ぎながら、従来の研究では討論されていない疑問文と二人称文を考察範囲に入れ、30個の和語心理動詞を考察対象とし、心理動詞の人称制限を中心とする考察を行った。という分布を成しているとは言えない。特に、一人称文や二人称文においては、典型的な人称分布に一致していないところが多い。

具体的にいうと、まず、一人称平叙文においては、「知る、楽しむ、喜ぶ、怒る、疲れる、苦しむ、悩む、慌てる、恐れる、飽きる、焦る、呆れる、怯える、戸惑う」という14個の動詞は、スル形で一人称主語と共起できない。そのうち、感情変化動詞である「焦る、疲れる、飽きる、呆れる」という四つの動詞のシタ形は、一人称に限定されている。また、一人称疑問文においては、「思う」は、スル形でもシテイル形でも一人称と共起できる。

また、二人称平叙文は、先行研究が提案した分布を成しているが、二人称が主語となる疑問文においては、「知る、楽しむ、驚く、喜ぶ、怒る、疲れる、苦しむ、悩む、慌てる、迷う、祈る、恐れる、飽きる、焦る、呆れる、怯える、戸惑う」のスル形を使うと非文になる。そのうち、「疲れる」や「飽きる」のシタ形は、二人称主語を取れる。注意されたいのは、すべての感情表出動詞のスル形は、先行研究が提案した分布対応関係を成しているとは言い切れず、「驚く」「迷う」という二語は、二人称疑問文において、シテイル形を取るのが一般的である。

さらに、三人称は平叙文でも疑問文でも、先行研究に提案した人称分布を呈している。

調査の結果として、30個の心理動詞の人称分布は、工藤(1995)が提案した心理動詞の人称分布に一致していないことが明らかであった。

ところが、本論文の調査対象はすべての心理動詞をカバーできず、心理動詞の人称制限を調査するためには、より多くの母語話者へのアンケート調査に基づく実例調査を増やす必要がある。また、アンケート調査のデータの処理方法の更なる検討や調整も今後の課題として残されている。

参考文献

影山太郎. 『点と線の言語学—言語類型から見た日本語の本質—』くろしお出版, 2021。

- 神尾昭雄. 『情報のなわ張り理論』大修館書店, 1990。
- 神尾昭雄. 『統・情報のなわ張り理論』大修館書店, 2002。
- 金水敏. 「報告」についての覚書. 『日本語のモダリティ』, くろしお出版, 1989。
- 工藤真由美. 『アスペクト・テンス体系とテキスト』, ひつじ書房, 1995。
- 鈴木重幸. 「現代日本語の動詞のテンス—終止的な述語につかわれた完成相の叙述法断定のばあい—」. 『言語の研究』, むぎ書房, 1978。
- 鷺見幸美. 「テイルの意味機能」. 『名古屋大学日本語・日本文化論集』(4), 1996。
- 南不二男. 「談話の性格と人称制限」. 『近代語研究11 松村明教授追悼論文集』, 武蔵野書院, 2002。
- 山岡政紀. 『日本語の述語と文機能』, くろしお出版, 2000。
- 山岡政紀. 「文機能とアスペクトの相関をめぐる一考察—テイル形の人称制限解除機能を中心に—」. 『日本語日本文学』(24), 2014。
- 吉永尚. 『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』, 和泉書院, 2014。
- 林佩怡. 「テイルの意味について—報告性を中心に—」. 『国際文化研究』(16), 2010。
- 杨文江. 「現代日語示证范畴研究」. 南开大学出版社, 2023。
- Kageyama, Taro, and Michiaki Saito. Vocabulary strata and word formation processes. In Taro Kageyama and Hideki Kishimoto (eds.), *Handbook of Japanese Lexicon and Word Formation*. Mouton de Gruyter, 2016.

使用コーパス

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/>

付表 実例調査とアンケート調査の結果

動詞	母語話者	一人称				二人称				三人称			
		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文	
		スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル
1 思う	母語 1	A	A	B	A	A	A	A	A	B	A	B	A
	母語 2	A	A	A	A	C	B	A	A	C	B	C	B
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	78	67	0	0	0	23	32	23	0	31	1	21
	得点	10	10	8	9	7	9	10	10	6	9	6	9
	総	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○
2 考える	母語 1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	A	A	A	A	C	B	A	A	C	B	C	B
	母語 3	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	BCCWJ	14	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	得点	9	9	8	9	5	8	9	9	5	8	6	8
	総	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○
3 分かる	母語 1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語 3	A	A	B	A	B	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	28	27	0	0	0	0	10	11	0	0	0	0
	得点	9	10	7	9	7	9	9	10	8	9	8	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
4 知る	母語 1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	C	C	C
	母語 3	B	A	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	BCCWJ	1	24	0	0	0	2	0	29	0	2	0	2
	得点	5	10	5	9	5	10	6	10	5	8	6	8
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
5 認める	母語 1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	25	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	得点	9	9	8	9	7	9	8	9	7	9	8	9
	総	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○
6 楽しむ	母語 1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	B	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	1	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	得点	7	10	6	9	6	9	7	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○

動詞	母語話者	一人称				二人称				三人称			
		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文	
		スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル
7 覚える	母語1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	A	A	B	B	C	A	A	A	C	A	A	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	44	0	0	1	0	0	33	0	0	0	0
	得点	8	10	7	8	6	9	8	10	6	9	8	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○
8 驚く	母語1	A	A	B	B	B	A	B	B	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	8	3	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0
	得点	8	10	6	8	6	9	7	8	6	9	6	9
	総	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
9 困る	母語1	A	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	29	4	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0
	得点	8	10	6	8	7	9	8	9	7	9	7	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	○
10 喜ぶ	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	2	8	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	得点	7	10	6	8	6	9	6	9	6	10	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
11 怒る	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	8	0	0	0	0	0	1	9	0	3	0	0
	得点	7	9	5	8	6	9	6	10	6	10	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
12 疲れる	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	BCCWJ	0	5	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0
	得点	5	10	5	8	5	9	5	10	5	10	5	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○

動詞	母語話者	一人称				二人称				三人称			
		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文	
		スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル
13 望む	母語1	A	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語2	A	A	A	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	B	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	2	2	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0
	得点	9	10	7	8	7	9	8	10	7	9	7	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	○
14 悩む	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	得点	6	10	5	8	6	9	6	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
15 慌てる	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	BCCWJ	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	得点	6	9	6	8	5	9	6	10	5	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
16 諦める	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	A	A	A	A	C	A	A	A	C	A	B	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	5	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	得点	9	10	8	8	6	9	10	9	6	9	7	9
	総	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○
17 恐れる	母語1	A	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	3	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1
	得点	7	10	6	8	7	9	7	10	7	10	7	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	○
18 迷う	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	A	A	B	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	2	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
	得点	8	10	7	8	5	9	6	9	6	9	6	8
	総	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○

動詞	母語話者	一人称				二人称				三人称			
		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文	
		スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル
19 疑う	母語1	A	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語2	B	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	1	0	0	0	0	1	7	6	0	2	0	0
	得点	8	9	6	8	7	9	8	10	7	10	7	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	○
20 好む	母語1	A	A	B	B	B	A	A	A	B	A	B	A
	母語2	A	A	A	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	得点	9	9	8	8	5	9	8	9	5	9	7	9
	総	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	○
21 析る	母語1	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語2	A	A	B	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	21	15	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	得点	10	10	8	9	7	9	7	9	7	9	7	9
	総	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○
22 嫌う	母語1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	B	B	B
	母語2	A	A	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	得点	8	9	7	8	7	7	8	9	7	8	8	8
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○
23 こだわる	母語1	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語2	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
	得点	9	10	8	9	8	9	9	10	8	9	8	9
	総	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24 飽きる	母語1	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	得点	6	9	6	9	6	9	6	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○

動詞	母語話者	一人称				二人称				三人称			
		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文		平叙文		疑問文	
		スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル	スル	シテイル
25 焦る	母語 1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	得点	6	9	6	8	6	9	6	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
26 呆れる	母語 1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	B	A	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A
	BCCWJ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	得点	5	9	5	8	5	9	6	9	5	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
27 怯える	母語 1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0
	得点	6	9	6	8	6	10	6	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
28 躊躇う	母語 1	B	A	B	B	B	A	A	A	B	A	A	A
	母語 2	A	A	B	A	C	A	A	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	得点	8	9	7	8	6	9	9	9	6	9	7	9
	総	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	○
29 戸惑う	母語 1	B	A	A	A	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	得点	6	9	7	9	6	9	6	9	6	9	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
30 苦しむ	母語 1	B	A	B	B	B	A	B	A	B	A	B	A
	母語 2	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A	C	A
	母語 3	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	BCCWJ	5	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0
	得点	7	9	6	8	6	9	6	9	6	10	6	9
	総	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○